



— 横浜の台場 —

39

神奈川台場

発掘調査で
検索された
神奈川台場
東海面側の
石垣
(上:北から,
下:上方から)



台場とは、主に幕末期に日本近海に現れた外国船を監視・迎撃する海岸砲台のことです。著名なものに東京都品川区に所在する品川台場があります。日本各地に築かれた台場は時代により規模の大小はありますが、その数は約1000か所とも言われています。こうした海岸防備のための砲台の一つが横浜市神奈川区にもありました。それが神奈川台場です。1859年に横浜が開港すると、翌年には横浜を守る主要な防御施設として神奈川台場が神奈川区の海岸部に造られたのです。

埋蔵文化財センターでは、平成20年以降、数度の発掘調査を行ってきました。これにより神奈川台場の築造・工法などが少しづつ判ってきました。また、この時代、文書などの文献資料、絵図や写真など、多くの史料が遺されており、こうしたものと共に研究することにより、さらに多くのことが明らかになることが期待されます。



公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターが栄区の旧野七里小学校に移転てきて、今年で10年になります。

埋文センターでは発掘調査を行い、出土した遺物を整理・報告する調査事業を主に行っており、市内の遺跡出土の遺物を管理・保管しています。展示室や図書室も兼ねていますので、まだ埋文センターに来たことがないという方は、是非この機会にいらしてください。これまでの感謝も込めて記念グッズの頒布などを考えています。また、発掘調査でわかった成果を展示や講座などの普及啓発事業を通して広く皆さんに公開しています。こうしたイベントにも是非足を運んでみてください。

今後もどうぞよろしくお願いいたします。

● 移転10周年記念ロゴマーク
移転10周年を記念して新たなロゴを作り、早速今号の表紙を飾りました。今年はこのロゴを使って、積極的に皆さんに埋文センターをアピールしていかたいと思います!

Q. 壱に隠れたアルファベットを2つ探してみてね。
この宮には私たちが仕事に使うキャラパーという道具も隠れているよ。ちなみに緑色をした生物は「勾玉君」。

編集後記
今回のテーマは「台場」です。横浜市域は広く、場所によって歴史も自然も様々です。台場とは海岸防備のための施設なので、今日は海側地域のお話です。こうした地域になじみのない方は、「横浜にも台場があったの？」と思われるかもしれません。
この本をきっかけに、市内の様々な地域に足を運んでいただき、その地域の歴史を感じていただけましたら幸いです。 編集 N

《埋蔵文化財センターのご案内》

利用案内

平日：9～17時（イベント時を除く）
(団体利用：事前申込)※栄区郷土資料供覧

アクセス

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス「上郷ネオボリス」行きまたは「栄一丁目」行きに乗車、「上郷ネオボリス」下車徒歩1分

京浜急行線「金沢八景」駅

金沢八景駅前3番乗り場より「上郷ネオボリス」行き、終点「上郷ネオボリス」下車徒歩1分または神奈中バス「大船駅」行きに乗車、「長倉町」下車徒歩7分

JR線「大船」駅

3番乗り場より神奈中バス「金沢八景駅」行きに乗車、「長倉町」下車徒歩7分



「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

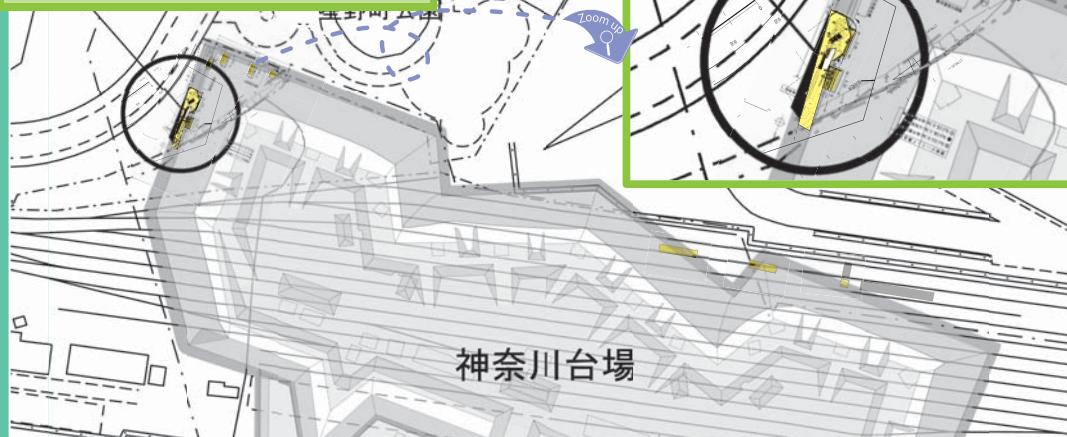
埋文よこはま 39

発行日 2019年3月31日
編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
印刷 株式会社ナデック



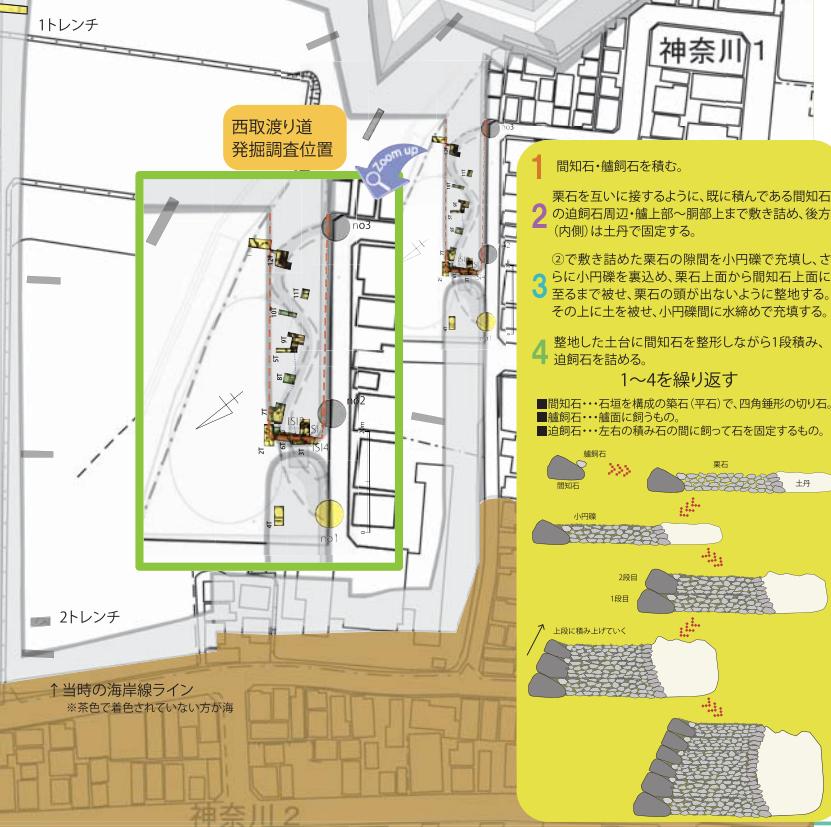


長方形で記された部分は調査箇所(トレンチ)を記しています。グレーで塗られているところは遺構検出がみられなかったところ、黄色で塗られているところは遺構が検出されているところです。



神奈川台場 発掘調査史

調査年	調査方法 (調査主体)	調査箇所 (調査の場所)	出土遺構／遺物
平成6年 (1994)	試験2ヶ所 (社)土木学会	西取渡り道 【台場公園】	玉石散在を確認 する。柱頭等で ほりこまれた跡 (裏込め石か)
平成8年 (1996)	露出石垣の現況 調査(電気鉄道 各所)	石垣	
平成14年 (2002)	試験6ヶ所 ボーリング3ヶ所 (横浜市教育委員会)	表大廻り1付活 【野町公園】	石垣(間知石・裏込め 石)・裏込め
平成17年 (2006)	試験6ヶ所 (東京大学大河 ・社)神奈川地盤活 性化推進協議会調 査研究委員会)	西取渡り道・船 着場付近の入り 口 【台場公園】	石垣(間知石・裏込め 石)・裏込め 石・木の痕跡な ども確認できず
平成20年 (2007)	トレンチ調査5ヶ所 (92m) 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	裏海側(西 半分)	石垣(間知石・裏込め 石)・裏込め 石・土丹
平成20年 (2007)	トレンチ調査5ヶ所 (92m) 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	西取渡り道 【台場公園】	石垣(間知石・裏込め 石)・裏込め 石・土丹
平成23年 (2011)	トレンチ調査7ヶ所 (55.75m) 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	西取渡り道 【台場公園】	石垣(間知石・裏込め 石)・裏込め 石・土丹
平成25年 (2013)	西取渡り道・ 電磁波レーダー探 査	西取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	西取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)
平成26年 (2014)	試験2ヶ所 【公財横浜市ふるさと歴史財團】	東取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	東取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)
平成27年 (2015)	確認調査のか所 (横浜市立歴史教科 会)【公財横浜市ふ るさと歴史財團】	西取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)	西取渡り道 【台場公園】(地域 と歴史的・文化財 研究委員会)
平成30年	ボーリング調査 【横浜市立歴史教科 会】(公財横浜市ふ るさと歴史財團)	東取渡り道 【江之浦5 小浜川】	東取渡り道 【江之浦5 小浜川】



建築資材の調達 ~石は何処から?~

台場の石垣を構成する間知石に用いられた石材は、文献では「伊豆堅石」となっています。発掘調査で実際に検出された東海面側石垣の間知石は真鶴半島周辺の海岸部で採石される安山岩(新小松石)である可能性が高く、現在露出している石垣も安山岩が多く使用されています。さらに、東海面側の間知石は長石を多く含み、有色鉱物の含有量が少ないと特徴で、同じ丁場で切り出された石である可能性があります。同時期に構築された横浜港の波止場の一部にも真鶴産の安山岩が使用されており、伊豆石または相州石と呼ばれています。神奈川台場では真鶴産の安山岩が主に使用されていたとみられます。

この台場の工事を指揮したのは江戸の土木業者の平野弥十郎と現在のJR磯子駅近くに住んでいた堤磯右衛門でした。堤磯右衛門が居住する磯子村は台場建設に使用された土丹岩の産出地でした。また台場の建築資材には岩石だけでなく、芝や松材、鎌など様々なものが大量に必要であり、台場建設は一大公共事業であり、多くの資材と労働者を必要としました。

石垣の構造 ~裏側部分~

石垣は、単純に石を積むだけでは造れません。石垣は基本的に築石(平石)、裏込め(栗石・砂利層)、基盤層(盛土・地山)の3層構造で、裏込めと呼ばれる石垣の背面構造は石垣を安定させるために不可欠でした。

石壁部を構成する間知石の形は四角柱ではなく四角錐をしており、積み上げた石の間には飼石という石を入れます。飼石や胴飼石、追迫石などといい、艦面(石尻)や中間部分に入れて、隙間を詰めます。また裏込石や栗石などと呼ばれる大量の礫を詰め、排水や地盤固定を行います。石垣裏側の見えない部分に様々な工夫をし、巨大な建造物が崩れないようにしています。

東海面の発掘調査では左記の図のような工法がわかっています。一方で、西取渡り道の発掘調査では、本体石垣裏側にみられた工法とは異なる様相がみられました。基本的には標高1m付近まで下部構造である白色土丹層を積み、その上端を水平にし、その上に上部構造を積み上げています。本体側と遠い6トレンチ～8トレンチでは、土丹交じりの黄褐色砂層、本体側に近いトレンチでは黄白色の土丹層を芯にし、そこに軟弱な暗灰色砂層を積み上げる方式をとっています。

間知石のサイズ ~大きさと工夫~

神奈川台場の間知石のサイズをみると、東海面では小面(正面)一辺の長さは約50～70cm、控え長(奥行)は1.0～1.2mと、揃ったサイズの間知石が検出され、「御炮台仕様及び経費明細書」で表側、つまり海面側の間知石が「面二尺四方扣長三尺より四尺まで」(小面一辺約60cm、控え長90～120cm)とあり、東海面で検出された石垣と同サイズが記されています。

一方で、西取渡り道の発掘調査で検出された間知石は、上記文献で本体内側の間知石(小面50cm)と同じ大きさです。文献では取渡り道の間知石のサイズは現在露出する西取渡り道の石垣積み直しとみられる箇所の間知石のサイズ(30～40cm)と一致し、取渡り道では異なるサイズの間知石が混在していた可能性があります。

隅(角)にあたる角石の間知石には長方形の大型の石を用い、出角の「算木積み」が実際に現地で確認できます。直方体の角石の小面と大面を交互に組み合わせて積むことにより、隅角部に対してかかる石垣の全重量を左右に分散して支える構造です。こうした石垣の技術は築城の技術からつながります。

上写真 神奈川台場東海面側の裏込め部分(間知石上から4段目北西側)

下写真 神奈川台場東海面側の石垣～裏込め断面～土丹状況



SEARCH

神奈川台場に行ってみよう！
Walk to Kanagawa Daiba



【人物説明】

- ◎伯爵（自称か）
喜まへ朝治駆の人。
どうやらヨイナズリーやでるらしい
うざらが寝ぼに来て説明してくれる優良
好きが親切な人（眠なだけか）。
- ◎コウモリッス
伯爵のお名前は福島。
神奈川台場の跡が自宅に残っていると
聞きつけ、伯爵についてきたた
かなり自分が好きらしい
(サンタマまでコウモリ物)

神奈川台場の間知石は
横浜都市発展記念館の
屋外にも展示されています。

こんなところにも発見



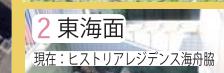
現在石垣が露出しているところ



※間知石は元の場所から移動して
います。間近で見学するこ
とが出来ます。



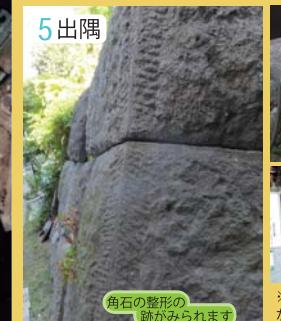
現在：横浜市中央卸売市場隣接地



3 西取渡り道



4 西取渡り道



※石垣の隣接地は私有地と
なります。見学に際しては
十分ご留意ください。

イラスト：諸川摩美

